

(添付書類用)

令和3年度 地域創生事業助成金 実績報告書(事業別)
(地域活動支援事業及び地域計画推進事業)

事業実施団体 見初自主防災会
見初自治会連合会

事業名	1	地域防災強化事業		
事業期間	令和3年5月～令和4年3月			
決算額	148,664 円		助成金充当額	100,000 円
事業対象者	全地区民及び役員		参加人数	延べ、80人程度
事業内容	(どのような事業を、どのように行ったか) 計画では、防災時の炊き出し訓練、防災関係備品の充実、避難所開設の準備活動、連絡網の再整備、役員研修、全地区民対象の啓発チラシ作成・配布を予定していた。しかし、「新型コロナ」の問題で、ギリギリまで準備等を役員を中心に行っていたが、「防災時の炊き出し訓練」、「避難所開設の準備活動」に関しては地区民を対象に実施できなかった。「炊き出し訓練」という費用がかかる事業が実施できなかった分、それまで予算の関係で購入できなかった備品購入を当初計画よりも増やして購入した。			
事業目標	全地区民の防災意識の向上と防災時の自助・共助の向上を図り、災害時の準備の充実			
	数値目標		令和3年目標	令和3年実績
	30人		役員数×2	達成
	(達成できた、又は、できなかった要因) 役員会の回数が前年度よりも増加。また、研修会も実施し、役員が集まる回数が前年度よりも増えたことにより、目標を達成した。			
事業効果	(事業の実施により、どのような効果が得られたか) 大きな事業は「新型コロナ」の問題で実施できなかったが、役員会等の回数が増えたことにより、防災時の核となるメンバーの質は向上していると考ええる。			
今後の課題等	(事業の必要性、継続していくための課題や改善点など) ・地区民全体への啓発活動の在り方。・防災時の避難所の具体的な活動の仕方。・防災組織の再検討			
自己評価 (3段階評価) 1:不十分 2:効果的 3:非常に効果的	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか		1	② 3
	助成金を有効に活用できましたか		1	2 ③
	多くの住民の参加が得られましたか		①	2 3
	今後も事業継続できますか		1	2 ③

(添付書類用)

令和3年度 地域創生事業助成金 実績報告書(事業別)

見初地域づくり協議会

事業実施団体 見初体育委員協議会

見初ふれあい親和会

事業名	2	健康づくり事業		
事業期間	令和3年4月～令和4年3月			
決算額	844,867 円		助成金充当額	400,000 円
事業対象者	全地区民・ふれあい親和会会員		参加人数	延べ、約360人
事業内容	(どのような事業を、どのように行ったか) 当初の計画は、見初地区健康プランの実施、地区民及び高齢者の「適度な運動」日常化に関する事業の実施、地区民の交流の促進を図り、WHOの健康の定義に則った「健康づくり」事業の実施である。 「新型コロナ」の問題で、なかなか思うようには進まなかったが、可能な範囲で事業はほぼ予定通り実施した。特に、令和3年度は、スポーツ振興委員協議会が購入した「ボッチャ」の用具を有効活用して、地区の中にボッチャが広まった。ただし、実施時は、マスク着用、できるだけ声を出さないなどに留意しながらの実施となつたため、交流の程度は低めとなり、「心」の健康は困難を極めた。			
事業目標	・WHOの健康の定義にあるように、単に「『病気でない』とか『病弱でない』から健康である」という考えでなく、「定義」に基づく「健康づくり」を地区の中に日常化する事業を実践していく。			
	数値目標	令和3年目標	令和3年実績	
	各事業参加者を105%にする。	ほぼ達成	参加者はコロナ問題で増加はならなかったが、行事に関わったスタッフ人数は達成した。	
	(達成できた、又は、できなかった要因) やはり、「新型コロナ」問題の影響で、人を積極的に集めることができなかったことによる。			
事業効果	(事業の実施により、どのような効果が得られたか) ボッチャというリクリエーションスポーツを新規に取り入れることで、交流に深まりができた			
今後の課題等	(事業の必要性、継続していくための課題や改善点など) 事業に関わるスタッフの若返りが必要。			
自己評価 (3段階評価) 1: 不十分 2: 効果的 3: 非常に効果的	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか		1	② 3
	助成金を有効に活用できましたか		1	2 ③
	多くの住民の参加が得られましたか		1	② 3
	今後も事業継続できますか		1	2 ③

(添付書類用)

令和3年度 地域創生事業助成金 実績報告書（事業別）
見初地域づくり協議会
事業実施団体 見初小学校学校運営協議会
神原中学校学校運営協議会
見初小学校育友会

事業名	3	小・中学校との連携事業			
事業期間	令和3年4月～令和4年3月				
決算額	409,607 円	助成金充当額	300,000 円		
事業対象者	全地区民、小中学校関係者	参加人数	内容的には人数で換算できない		
事業内容	(どのような事業を、どのように行ったか) 事業計画は、コミュニティ・スクール関係事業の実施である。「新型コロナ」の問題の影響で、十分には実施できなかった事業もあったが、学校・保護者との連携で可能な限り実施した。				
事業目標	数値目標		令和3年目標	令和3年実績	
	・見初小学校学校運営協議会・見初小学校・見初育友会・見初地域づくり協議会共催の合同大運動会及び小・中の学校運営協議会の事業を実施することで、「やまぐち型地域連携教育」を、見初地区においてより発展させていく				
	・中学生の地域行事への参加者を昨年度比103%にする		達成	昨年度よりも、学校・家庭・地域の連携が深まっている。	
	(達成できた、又は、できなかった要因) 中学生との連携が昨年度よりも深まった。				
事業効果	(事業の実施により、どのような効果が得られたか) 子育て世代の地域への協力が増えて				
今後の課題等	(事業の必要性、継続していくための課題や改善点など) 子育て世代の大人の時間的な余裕を増やす。				
自己評価 (3段階評価) 1：不十分 2：効果的 3：非常に効果的	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか		1	2	③
	助成金を有効に活用できましたか		1	2	③
	多くの住民の参加が得られましたか		1	2	③
	今後も事業継続できますか		1	2	③

(添付書類用)

令和3年度 地域創生事業助成金 実績報告書（事業別）

見初社会福祉協議会

事業実施団体

見初民生児童委員協議会

見初ふれあい親和会

事業名	4	高齢者福祉事業		
事業期間	令和3年5月～令和4年3月			
決算額	154,459 円	助成金充当額	150,000 円	
事業対象者	地区在住高齢者	参加人数	延べ、約200人	
事業内容	（どのような事業を、どのように行ったか）当初の計画は、長寿お祝い活動の実施、高齢者交流活動としての「昼食会」の実施、合同慰霊祭の実施、ふれあいサロンの実施であった。しかし、「新型コロナ」問題で「昼食会」はできなかった。でも、「ふれあいサロン」は、「常安寺」、「40区公会堂」、「ふれあいセンター」の地区内3カ所で実施した。また、ふれあいサロンは、南部第2高齢者総合相談センター、健康・保健福祉支援チーム、むべの里等の地区に関わる公的団体との協力・協働で実施した。			
事業目標	長寿のお祝いを地区で行うことで、「長寿の喜び」を実感すると共に、高齢者同士がふれあう機会を設定することで「高齢化地域としての見初」の活性化を図る			
	数値目標	令和3年目標	令和3年実績	
	各事業の参加者を昨年度比102%にする	達成	前年度よりも実施回数・1回の参加者数が増えた。	
	（達成できた、又は、できなかった要因）ふれあいセンターで開催した「レコードcafe」は地区として定着した活動となった。また、毎回感想を聞くなどして、参加者の意向にできるだけ沿った活動が展開できた。			
事業効果	（事業の実施により、どのような効果が得られたか）「新型コロナ禍」でも、外出する機会をふやすことで、「ひきこもり」の程度を緩和できた。			
今後の課題等	（事業の必要性、継続していくための課題や改善点など）役員の世代交代を検討していくことが必要。			
自己評価 （3段階評価） 1：不十分 2：効果的 3：非常に効果的	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか		1	2 ③
	助成金を有効に活用できましたか		1	2 ③
	多くの住民の参加が得られましたか		1	② 3
	今後も事業継続できますか		1	2 ③

(添付書類用)

令和3年度 地域創生事業助成金 実績報告書(事業別)

事業実施団体
環境衛生連合会見初支部
見初交通安全推進委員会
見初防犯連絡所指導員協議会
見初ふれあい運動推進委員会

事業名	5	安全・安心・快適環境づくり事業		
事業期間	令和3年4月～令和4年3月			
決算額	357,865 円	助成金充当額	45,000 円	
事業対象者	全地区民	参加人数	内容的に人数で表すことはできない	
事業内容	(どのような事業を、どのように行ったか) 当初の計画は、ゴミステーション新規設置支援活動、交通安全活動の実施、防犯活動の実施であった。			
事業目標	地域の「安全・安心・快適な生活環境」を一層創造するために、生活環境づくり、交通安全関係の環境づくり、犯罪のない地域づくりの活動の事業を行い、より生活しやすい地域づくりを目指す			
	数値目標	令和3年目標	令和3年実績	
	「生活しやすい地域」という「感じ方の向上」となるため、数値には表しにくい、「感じ方の向上」が、地域の行事の参加者の増加につながる。	数値化はできない	数値化はできない	
	(達成できた、又は、できなかった要因) 特になし。			
事業効果	(事業の実施により、どのような効果が得られたか) 子どもたちの通学時の安全が一層得られた。			
今後の課題等	(事業の必要性、継続していくための課題や改善点など) 中心となるメンバーの若返りの謙と。			
自己評価 (3段階評価) 1：不十分 2：効果的 3：非常に効果的	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか		1	2 ③
	助成金を有効に活用できましたか		1	2 ③
	多くの住民の参加が得られましたか		1	② 3
	今後も事業継続できますか		1	2 ③

(添付書類用)

令和3年度 地域創生事業助成金 実績報告書(事業別)

(地域活動支援事業及び地域計画推進事業)

見初地域づくり協議会

事業実施団体 見初子ども委員会

見初ふれあい親和会

事業名	6	三世代交流事業		
事業期間	令和3年4月～令和4年3月			
決算額	89,625 円	助成金充当額	70,200 円	
事業対象者	全地区民	参加人数	数値化はできなかった。しかし、昨年度よりは質・量的に前進してい	
事業内容	(どのような事業を、どのように行ったか) 当初計画では、伝統あそびの実施、夏まつり行事の実施、見守り活動の実施、餅つき・しめ縄飾り行事の実施、どんど焼行事の実施であった。しかし、「新型コロナ」問題で、幾つかの事業は実施できなかった。その分実施した事業への参加者は増えた。			
事業目標	三世代が交流する場として、様々な行事を実施する中で、地区住民相互の交流を深めより一層住みやすい地域を創る			
	数値目標	令和3年目標	令和3年実績	
	参加者を昨年度比105%	達成	この事業においても、数値化することは難しい。	
	(達成できた、又は、できなかった要因) 当初の計画では、伝統あそびの実施、夏まつり行事の実施、見守り活動の実施、餅つき・しめ縄飾り行事の実施、どんど焼行事の実施であった。しかし、「新型コロナ」問題で、「伝統あそび」、「餅つき」、「夏まつり」は実施できなかった。「新型コロナ禍」では、事業が実施できるかどうかはある程度事業実施間近にならないと分からないケースが多いので、どちらになるにしても大丈夫のように、役員会で十分に検討していった。			
事業効果	(事業の実施により、どのような効果が得られたか) 役員会の充実を図ることができた。			
今後の課題等	(事業の必要性、継続していくための課題や改善点など) 役員の世代交代を意識的に追求する必要がある。			
自己評価 (3段階評価) 1：不十分 2：効果的 3：非常に効果的	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか		1	② 3
	助成金を有効に活用できましたか		1	2 ③
	多くの住民の参加が得られましたか		1	② 3
	今後も事業継続できますか		1	2 ③

(添付書類用)

令和3年度 地域創生事業助成金 実績報告書（事業別）

見初地域づくり協議会

見初自治会連合会

事業実施団体 見初ふれあい運動推進委員会

見初子ども委員会

見初母子保健推進委員会

事業名	7	見初地区課題解決事業		
事業期間	令和3年4月～令和4年3月			
決算額	173,854 円	助成金充当額	63,000 円	
事業対象者	全区民及びその関係者	参加人数	延べ、100人 + α	
事業内容	(どのような事業を、どのように行ったか) 当初の計画は、課題解決検討活動（孤独・孤立化の防止等）、新成人と集う会の実施、新入生を祝う会の実施、子育て支援活動の実施であった。しかし、「新型コロナ」の問題で「新成人と集う会」は実施できなかった。他の事業に関しては、役員会で「新型コロナ」を見据えながら開催した。			
事業目標	今年度も「課題」を多くの地域住民に表面化させることが目標となる			
	数値目標	令和3年目標	令和3年実績	
	数値化していない	数値化していない	延べで、100人 + α の参加。孤独・孤立の防止に関しては不明。	
	(達成できた、又は、できなかった要因) スマホ教室を「新生活様式プロジェクト」メンバーに協力を得ながら開催。また、「IT機器を活用したい」という思いが増加するように、「みぞめ動画チャンネル」・「みぞめホームページ」等を充実させた。それは、何らかの効果があると考えている。今年度の結果は、数年後に現れてくると認識している。			
事業効果	(事業の実施により、どのような効果が得られたか) 各団体の役員を中心として、ITへの意識が深まっている。			
今後の課題等	(事業の必要性、継続していくための課題や改善点など) 地区民全体への広報の充実。IT機器を活用できるスタッフの充実。			
自己評価 (3段階評価) 1：不十分 2：効果的 3：非常に効果的	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか		1	② 3
	助成金を有効に活用できましたか		1	2 ③
	多くの住民の参加が得られましたか		1	② 3
	今後も事業継続できますか		1	2 ③

(添付書類用)

令和3年度 地域創生事業助成金 実績報告書（事業別）

（地域活動支援事業及び地域計画推進事業）

事業実施団体 見初地域づくり協議会

事業名	8	広報事業			
事業期間	令和3年4月～令和4年3月				
決算額	129,091 円		助成金充当額	45,000 円	
事業対象者	全地区民		参加人数	人数で表すことはできない	
事業内容	（どのような事業を、どのように行ったか）毎月、地域づくりの三役会・役員会で内容を検討し、毎月発行した。				
事業目標	毎月1回の「見初だより」の発行				
	数値目標		令和3年目標	令和3年実績	
	毎月1回発行する		達成	12号発行	
	（達成できた、又は、できなかった要因）会議の充実。地域雇用者の活躍。地区の事業の充実。				
事業効果	（事業の実施により、どのような効果が得られたか）地域づくりの役員が、地区内の事業全体の認識度が深まった。				
今後の課題等	（事業の必要性、継続していくための課題や改善点など）内容の充実。				
自己評価 （3段階評価） 1：不十分 2：効果的 3：非常に効果的	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか		1	2	③
	助成金を有効に活用できましたか		1	2	③
	多くの住民の参加が得られましたか		1	2	③
	今後も事業継続できますか		1	2	③